



# JAAからのお知らせ



▲世界遺産「百塔の町」と称される、プラハアコーディオンフェスタが行われたクレメンティヌム内サルバートル教会



▲左から、西辻理事 チェコ協会会長 鶴見理事  
スロバキア協会会長 プラハアコーディオンフェスタ  
事務局長 柴崎理事

## プラハ アコーディオン フェスティバルを鑑賞して

10月31日より8日間、トラベルハーモニー(株)の企画による「プラハアコーディオンフェスティバル鑑賞の旅」に14名が参加し、楽しく有意義な1週間を過ごしました。

11月2日、プラハ旧市街にそびえるサルバートル教会聖堂でオープニングコンサートが行われました。最初に日本から特別参加の西辻善則さんのアコーディオンと黒川晃世さんのピアノのデュオで日本の歌メドレー、チャルダッシュなどの演奏から始まりました。その後、スイス、アイルランド地元プラハのアンサンブルによる様々なジャンルの曲が演奏され、アコーディオンが一般に広く愛されている様子が伺えました。

夜は別の市街地に建つ立派なシモン・ユダ教会で、特別招待されたロシア、スペイン、ドイツの3チームによるガラコンサートが満員の観客を前に素晴らしい演奏が繰り広げられました。チームは構成によりアンサンブル又はオーケストラと呼ばれていますが、それぞれにドラム、ティンパニー、シンセサイザー、サクソス等の他楽器を加えて演奏効果を更に高めています、各チーム共お国柄を強調して自国作曲家の作品や民族音楽にダンスを入れたりとプロ並みのレベルの高い演奏を堪能しました。各チーム共アコーディオンは20台前後でボタン式も半数近く使われていましたが、ドイツチームは全員ホーナーの鍵盤式で統一していました。

翌3日はいよいよコンクール。朝8時開始には間に合いませんでしたが、市民会館のそれ程広くない会場では、前列に3名の審査員が採点をしていました。参加国は8カ国15チームで3部門に分かれています。第1部門アンサンブルの部は11名以下、第2部門は25歳未満で12名以上、第3部門は年齢制限なし、12名以上で各部門他楽器使用可、演奏時間15分と規制されています。チームによっては全員指揮者を見つめたまま速いパッセージもピタッと揃っていてどんな練習方法でこんな演奏が出来るのか驚きでした。そして各チームの演奏が終わる度に、指揮者へ一輪のバラの花が贈られるのがほほ笑ましく、心温まる思いでした。

結果はドイツ、スロベニア、スペインが各部門最高点を獲得し、リストのハンガリアンラプソディー第2番を演奏したスペインが総合優勝しました。コンクール終了後直ちに得点表が発表されましたが、審査員の採点はかなりシビアと感じました。実に高いレベルを求めているということでしょう。近い将来、日本にも外国に負けられないアコーディオンオーケストラが育ち、活躍する日を待ち望んでおります。(小川 経子)



ウィーンでは、柴崎和圭先生のご紹介で、音楽学校の見学(施設見学・概要説明+個人レッスン見学)をさせていただきました。

学費の問題(半年で180ユーロ)、そもそもの音楽学校の数やバリエーション(ウィーンだけで音楽学校自体も20校以上あり、内容も音大進学を目指すものから、ミュージカル専門、障害者を対象としたもの、古楽器・古典専門など多彩)など、日本での音楽をめぐる環境との違いにまずは驚かされました。

レッスンは、子ども2人+20歳の男性1人の計3人を見せていただきました。スタンダードベースの曲とフリーベースの曲を同時進行でレッスンしているとのこと。レッスンは非常に具体的で、イメージをしやすく、また、生徒さんもそれに対して自分の意見をはっきり言っており、活発なレッスンだという印象を受けました。レッスンを受ける間に、音がどんどん変わっていくのがとても印象的でした。(小林のり子)